

大池中学校の各学年での人権学習の取り組みについて発表しました。

#### 【1年生】障がい者理解について

1年生は障害のある人への理解を深め、学んだことを人権作文にする取り組みをしました。人権マップをみて、人権が尊重されているところ、尊重されていないところはどこかを話し合い、どうしていけば人権が尊重される社会になっていくかを考えました。その後の授業では、援助や配慮が必要なことを周りに知らせるヘルプマーク、盲人のための国際シンボルマーク、耳マーク、ほじょ犬マーク、身体障がい者マークなどが表す意味やマークを見かけたらするとよいことを学びました。それぞれのマークを理解し、今自分にできることは何か考え、行動に移すことが大切だと思いました。また、ろう者の方に来ていただき、講演会で手話や普段の生活、考え方などを教えてもらいました。そして学習のまとめとして、これまでの学習を通して、人権作文を書きました。授業で学んだことや、それぞれが人権作文にまとめたことをこれからの生活にも活かし、2年生での学習につなげていこうと思っています。

#### 【2年生】部落差別について

勝手な思い込みや偏見によって差別が生まれていくということを学びました。江戸時代には、職業によって差別を分けられ、住むところを制限されたり、村の運営から除外されたりする部落差別が起きました。明治時代になり、政府は被差別身分を廃止する解放令を出しましたが、実質的な政策が伴わなかったため、人々の中に被差別身分の人と同じにされたくないという心は残り、さらに差別は厳しくなりました。

そんな差別を受けてきた方たちが立ち上げた、全国水平社について学びました。当時、差別されていた方々は、理不尽な状況を我慢するしかありませんでした。まだ、自分たちで声を上げることが難しい時代だったからです。しかし、そんな状況を打ち破ったのが全国水平社です。私たちは、全国水平社創立の中心メンバーである西光万吉さんの生い立ちや生き方、創立大会に参加された方たちの思い、仲間と協力して差別に立ち向かうことについて考えていきました。しかし、差別がなくならないのが現状です。そこで、最近の事例を自分事として考え学習し、部落差別を解消するための法律等が制定されていることを知りました。差別をなくすためには、自分には関係ないではなく一人一人が差別をしないこと、さらには「おかしいこと」には「おかしい」と言うなど、差別をなくすための行動をとることが大切だと思いました。

#### 【3年生】就職差別について

3年生は就職差別について学びました。就職試験の際に、「社用紙」という会社独自の応募用紙で親の職業や出身地などの本人の実力に関係のないことについても、就職試験の可否の判断材料にされる不平等選考が行われてきました。

例えば、性別が女性だから・男性だから、出身地が〇〇だからという本人の実力以外の場所で判断され、不合格にされることがありました。

そのことがあり、1970年代から高校生が就職活動で企業に提出する履歴書と調査書のセットである全国高校統一応募用紙が発行されました。何度も改定が行われ、今年には性別欄、身体状況欄が削除されました。そのような改善が行われている今でも就職差別のなごりが残っています。そのため毎年6月は就職差別解消促進月間と定められています。

#### 【人権講演会】性別って2つだけ？～多様な性のあり方～

一般社団法人 ELLY 代表理事の山口颯一（やまぐち しょういち）さんにお越しいたごき、性別って二つだけ？～多様な性のあり方～という題材で自身の経験をもと、性的マイノリティ：LGBTについて学びました。LGBTはレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーのことを表しています。レズビアンとは、女性を好きになる女性のこと、ゲイは男性を好きになる男性、バイセクシュアルは同性も異性も好きになる人、トランスジェンダーは心と体の性に不一致を感じる人のことを言います。LGBTへの理解は多様な性のあり方を考えていくうえで重要なことであると学びました。次に見た目ではわからない性別について学びました。人はそれぞれ、そもそも好みが違うので、髪長さや服装などの装いが違います。そのため、決定的な判断基準にはならないことがわかりました。

そして、性別に悩む人は私たちが思っているよりたくさんいることを知りました。その数は十一人に一人ほどで、この数は、身近なもので例えると左利きやAB型の人と同じぐらいです。

山口さんもかつて性別に悩んでいた一人で、「自分らしく、みんな違って当たり前」と、当時の話とともに話してくださいました。ほかにも、「自分の個性は強みに変わる」など、今の私たちに必要な考え方を示してくれました。

「差別やいじめがあるのに、気づいていない状態」いわゆる無関心状態こそが差別です。「自分も知らず知らずのうちに誰かを傷つけているかも…」や「見て見ぬふりをしている自分自身」そんな気持ちに向きあうことが、人権学習において大切なことだと思います。私たち大池中学校では人権問題に関心を持ち、互いを尊重し認め合えるみんなが安心して過ごせる学校をつくっていきます。